

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年 3月 8日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690100787		
法人名	医療法人社団 萩野医院		
事業所名	グループホームやまだ		
所在地	富山県富山市山田沼又88		
自己評価作成日	平成29年2月1日	評価結果市町村受理日	平成29年3月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社
所在地	富山市荒町2番21号
訪問調査日	平成29年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は四季の美しい景色を眺めながら気持ちよく過ごすことが出来ます。「ゆっくり 楽しく 和やかに」の理念を基に目標の「思いやり」も大切に、穏やかに過ごして頂けるよう介護を行っています。母体施設は萩野医院であり、医療連携を密に重度化や看取りの介護を行い、最期まで安心した日々が送れるよう支えています。今後更に研修や行事を充実させ、より質の高い介護を目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は自然豊かな山間部にあり、利用者は前庭を散歩したり、草花を摘んだり自然の空気を満喫している。萩野医院との連携により、最期まで本人や家族の思いを尊重し、重度化や終末期における支援体制を整えている。家族へは毎月「やまだ通信」で利用者の様子を伝え、面会時や家族会で交流を図り、家族の理解を得るよう努めている。管理者と職員は日頃からコミュニケーションを図り「思いやり」の心を持って利用者の支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)		

グループホームやまだ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度も理念についての研修会を行い共有を図りました。また、事業所目標も作り、毎朝、唱和をし理念に沿った介護の実践に繋がっています。	法人の理念と共に、事業所独自の目標を定め、勉強会やミーティングで唱和している。理念を職員全員が共有し、業務に繋げていくように取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	避難訓練は地域の方に参加を呼びかけ行っています。また、地元の桜の名所までドライブをしたり、りんご園に出かけています。地元の保育所の子供達やお寺の住職さんが来てくださっています。	地域との関わりが大切と考え、運動会など地区の行事には積極的に参加している。地主の好意により、近くのりんご園で「りんご狩」を行ったり、地元の子供達の踊りの訪問などで利用者が楽しんでいる。	事業所は山間部で近隣に民家が少ない状況ではあるが、事業所の行事をお知らせしたり、介護や認知症など身近な話題の勉強会を開催するなど、近隣の人たちにもっと事業所へ訪問してもらえよう働きかける取り組みが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接するデイサービスなどから、地域の方に当事業所の紹介をしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	研修や行事、第三者評価結果などの報告をしています。そこで、貴重なご意見を頂き運営に反映しています。	運営推進会議では、事業所からは利用者の生活をビデオで見せてもらっている。委員からは家族交流会での満足度調査について質問が出るなど、活発に意見交換が行われサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員として行政センター職員を委嘱しています。2か月毎に様々な意見をもらっています。法人本部では頃から市と連携し協力関係が築けています。今年も研修の講師を市の職員に依頼し実現できています。	市の担当者へは事業所の様子を報告したり、研修の講師派遣の依頼を相談している。市からは介護度が進んできた時の対応についてアドバイスを受けるなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度も身体拘束の内容や弊害について学び、話し合っています。しかし当事業所は環境は良いが、近隣に住宅がなく防犯面では注意を要し玄関は施錠をしています。入居者の外出希望がある時は、その気持ちを大切にし介助をしますが、防犯面にも注意を払っています。	事業所は山間部にあり、防犯上止むを得ず玄関は施錠されているが、利用者が外に出たい素振りがあれば、職員は一緒に前庭に出て散歩するなど、利用者の気持ちを汲んだケアに努めている。身体拘束はしないことを全員で確認し、日常業務においても徹底されるよう研修を重ねている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度も虐待防止についての研修を行い、虐待が見過ごされることがないように、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に権利擁護に関する制度の説明を受けています。その制度について家族から相談を受け、活用できるよう支援をした経緯があります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、家族に契約の内容を十分に説明し、理解や納得のうえ契約を締結しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者や家族とは良好な関係を築き、意見や要望を聴き対応をしています。また満足度調査や家族会でのアンケートでも意見をもらい運営に反映しています。	利用者とは日頃のふれあいの中で要望を把握するよう努め、家族には利用者の様子を毎月の「やまだ通信」で伝え、面会時や家族交流会で意見や要望を伝えてもらうよう配慮している。出された意見や要望は運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃から職員の意見を聞き、対応をしています。研修や行事でも意見を聞く機会を持ち、運営に反映しています。	管理者は職員と日頃からコミュニケーションを図り、業務中でも意見や要望などを聞き取るように心掛けている。業務に関わることは速やかに取り入れるなど、意見や要望を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の勤務状況を把握し代表者に報告をしています。代表者は職員がやりがいを持ち働けるよう、職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の仕事の経験年数や力量に合わせ、法人内外の研修を受ける機会を確保し、職員を育てています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者は研修会の参加を勧めています。研修に参加した職員からは、学んだことを聞く機会を設け、介護の質を高めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から本人と面談し情報を収集しています。入居後も本人の状態を十分観察し、困っていることや要望に耳を傾け、安心できる対応を考え実践し、信頼されるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談から要望や困っていることを十分に聞き対応をしています。相談しやすい良好な関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談と情報、本人の希望から、初期の介護計画を作成しています。そして、入居時には本人の一番困っていることから支援をしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできること、したいことを知り、一緒に家事や季節の掲示物作りなどを行い、声を掛け合い、共に過ごすようにしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人にとって家族は一番の頼りであり、共に支えてほしいと話をしています。できる限り面会に来て頂いたり、最近の状態を話し介護方法も一緒に考えてもらうようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や姉妹などの面会は自由に来て頂いています。自宅への思い入れがあり、親戚が集まる年末年始などに自宅に外出される方がいます。隣接するデイサービス福来に馴染みの方がおられ、交流の支援も行っています。	家族や友人の面会は自由であり、職員は利用者の馴染みの場所や人との関係が途切れないように支援している。自宅へ外出したり、思い出の場所へ出かけるなど、家族の協力を得ながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を把握し、居間の席を決めています。職員が利用者同士の間に入り仲介をしたり、自然な関わりも見守り支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者が退居する際、この後も相談に応じることを伝えています。そのため、記録は保管しています。死亡により退居となった場合も、職員は通夜や葬儀に参列し、家族支援に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者一人ひとりに対し、これまでの暮らしを知り、日々の発言や行動から思いや意向を把握し支えています。	利用者との信頼関係を築きながら日々思いや意向の把握に取り組んでいる。拒否の言葉や態度、不穏な行動などで把握困難な方には、利用者から発する少しのサインも見逃さないよう見守っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしは本人や家族、以前の介護支援専門員より情報を得て把握し支えています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は申し送りを聞いたり、入居者日誌や申し送りノートに記録してある内容を読み、暮らしの現状把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々、介護をしながら課題について本人や家族、職員全員で意見やアイデアを出し合いながら介護を実践しています。カンファレンスでも意見を出し合い、それらを反映し介護計画に繋げています。介護計画は期間を設定しモニタリングを行い、更新作成をしています。	本人の状態を観察しながら、出来ること、好きなことを職員間で話し合い、その人らしい介護計画の作成に努めている。視力の弱い方には転倒のリスクもあるが行動の自由を規制せず歩くことを勧めるなど、状態変化時には現状に即した計画を心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は毎日の様子を個別の日記に記録しています。また、ケアの工夫などは申し送りノートを活用し職員間で共有を図り、実践に繋がっています。これらが介護計画の見直しにも活かされています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接するデイサービスに馴染みの方がおられ交流をしたり、入浴でもデイサービスのお風呂が介助しやすく本人も喜ぶ様子がある方には、そちらで入浴をする方がいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理容店より毎月、訪問があり、整髪や髭剃りの支援が受けられています。散歩に出た際には、隣にあるパークゴルフ場を見学し、言葉を交わし楽しんでいます。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時には、かかりつけ医の説明をしています。全員が母体施設の萩野医院の往診体制や健康管理について希望されています。専門的な治療が必要な場合は、協力病院を受診できるよう紹介をしています。	萩野医院とは常に連携が図られており、月2回の往診や協力病院への紹介など、いつでも利用者には適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は毎日、体温や血圧を測定し、食事や水分摂取、排泄状況などを観察し異変があれば看護師に報告しています。看護師は母体施設の萩野医院と連携し、適切な治療や看護を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際、早々に地域医療連携室と連絡を取り、安心して入院治療が受けられるよう情報提供をしています。また、退院に向けても情報交換や相談を行い、退院が決まれば、今後の生活が安全で快適になるよう、本人と病院で会い状態を確認し、受け入れをしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいます。	看取りの状態と主治医が診断した際には、主治医より家族に説明をし家族の同意のもと看取り介護を実施しています。本人の状態に合わせ介護計画を作成し、苦痛の緩和や精神面の支援を行っています。最期まで安心して本人らしい暮らしができるよう医師、看護師、介護支援専門員、介護職等で話し合い支えています。	萩野医院との連携により、重度化や終末期に於いて支援体制ができており、職員の看取りケアの意識も高い。最期まで本人や家族の思いを尊重し、穏やかに過ごすことが出来るよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所にはAEDが設置されており、職員全員が使えるよう取扱い講習を毎年、行っています。事故発生時には、職員間の緊急連絡網を素早く回し対応をしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は職員全員が初期消火や通報、避難誘導が身につくよう年2回実施しています。春は地域の方に参加の声をかけ、地域の方と一緒に訓練を行い、秋には地域の消防署と合同の訓練を行っています。	年2回の避難訓練を実施しており、訓練時には地元消防団や地域総代にも協力を得ている。山間部で近隣に民家が少ないこともあり、事業所に近い職員の協力も非常時の体制に入れている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護をする上で、人格を尊重することはとても大事です。それを理解し実践するために毎年、勉強会で話をしています。排泄や入浴の介護では、恥ずかしい思いがあるため、相手を思いやる優しい介護と工夫をし、不快な気持ちにならぬよう心がけています。	目標に「思いやり」の言葉かけを掲げ、職員は自覚を持って取り組んでいる。きつい言葉や不穏な行動などが見られる利用者には人格を損ねないよう言葉かけに注意し、落ち着く時間を待って対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、表情や言葉、行動を見ながら、思いや希望を探りながら関わり、一つひとつの事を支えています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の生活リズムを知り、その方に合わせた生活の支援をしています。たとえば、起床時間やお昼寝など希望に沿うようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴の際は髪を整えたり、好みや似合う衣類の着用のお手伝いをしています。先日は「わくわくおしゃれデー」と題した行事を行い、おしゃれを楽しみました。理容師による整髪は好みの髪型を伝えています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者が、一緒に食事をしたり後片付けをし、やりがいや楽しみを持って頂けるよう支えています。献立も季節の食べ物や好みを考えて提供しています。	利用者には後かたづけなど出来ることを手伝ってもらい、職員と一緒に楽しく食事ができるような時間を持っている。視力の弱い方には調理の献立を伝え、一皿ごとに声かけをして勧めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人では安全で安心した食事を提供するために栄養科があります。嚥下や咀嚼に支障がある方には、トロミ剤の使用やきざみ食にする等、手を加えています。水分も必要量を摂取できるよう工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔内の清潔保持の必要性を理解しています。食事前には嚥下体操をしたり、食後は口腔ケアの声掛けや介助を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレで気持ちよく排泄できるよう、トイレの場所を教えたり、見守りし誘導の声掛けや介助をしています。	排泄の失敗などで自尊心を傷つけない対応に努めている。トイレの場所がわからない利用者には行動を見守りながら、早めの声かけで誘導を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中は体を動かし、水分が摂取できるよう努めています。水分摂取が困難な方には、使いやすいカップを準備し好みの飲み物や温度にも工夫をし、少しでも多く摂れ、便秘の予防や改善に繋がるよう努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決めています、本人の体調や希望に合わせ、日を変更し対応をしています。入浴を嫌がる方には、職員との関係が良好である事を大事にし、誘導の仕方やタイミングも工夫し介助をしています。	気持ち良く入浴してもらえるよう個々に応じた体調を見ながら勧めている。隣接するデイサービスの大きい浴場も利用でき、利用者の希望を聞きながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクリエーション活動を行い、気分よく過ごせるよう介助をし、夜は安心して眠れるよう支えています。お昼寝の必要な方には、その介助もしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者全員の薬剤情報があり、職員がいつでも見れる体制になっています。毎食毎の薬のトレーがあり、誤薬がないよう声を掛け合い介助をしています。薬の変更があった際、症状の変化を観察し看護師と話をしながら支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	主婦をしてきた方には、家事作業をしてもらい、はさみを上手に使える方には、壁飾り等の作業をしてもらい、張り合いや喜びを感じながら、気分よく暮らせるよう支えています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段は広い緑豊かな庭を散歩しています。毎年、行事計画を立て、あじさい見学やコスモス見学に出かけ、地域のりんご園にも行き、りんご狩りを楽しんでいます。時には近隣をドライブすることもあります。また、家族の支援により、外食や買い物に行く姿が見られています。	お天気の良い日は敷地内の散歩に出かけたり、道を挟んだパークゴルフ場のプレーを見たりして気分転換を図っている。季節ごとにドライブを兼ねて花見にも出かけ、また地元のりんご園からは「りんご狩り」の楽しいお誘いもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人が自分のお金で買い物をすることの楽しみを理解しています。現在は自分でお金を管理している方がいなく、買い物の介助は家族にしてもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方に暮らしておられるご家族と電話での取り次ぎや、ご家族からの手紙の代読を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は窓が大きく外の景色がよく見え四季を感じて頂けます。居間からは中庭にすぐ出られ、カフェを楽しめます。季節の飾りを一緒に作成し掲示し、楽しむこともしています。また、環境整備をし室温や湿度にも気を配り、健康で居心地よく暮らせるようにしています。	何処の場所においても自然光の明るさが感じられ、周りの山々の四季の移ろいが楽しめる。清潔感のあるリビングには利用者の作った塗り絵や大きな貼り絵が季節感を感じさせ、居心地良い空間が出来ている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の三人掛けソファや長椅子を利用し、入居者同士が談話を楽しんだり、独りになれたりと自由にしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族と相談し、使い慣れた物や好みの物を持参して頂くよう勧めています。また、塗り絵等の作品や家族との写真を飾る等、安心して暮らせる環境へと配慮しています。	居室入口ドアにはソフトクローズ機能が付いており、開閉時の安全を図っている。利用者が安心して過ごせるよう家族と相談しながら居室づくりを進め、花の塗り絵を壁いっぱい飾るなど本人らしい部屋となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーであり、手すりが各場所に設置され、車椅子や歩行器での移動もスムーズです。また、各居室には電動ベッドが設置され、安全で快適に過ごしやすい環境になっています。		

## 2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームやまだ  
作成日 平成29年 3月14日

### 【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域との交流は行っているが、更に良好な関係へと深める必要があります。	地域の方々に事業所を理解してもらい、良好な関係が築ける。	地域の行事（運動会など）に出かけたり、事業所の行事には地域の方に参加を呼びかけ、交流の場を広げます。	10か月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。